

特集

論理的に話そう!

「もっと論理的に考えたらどうだ」「論理的に考えたらこうなる」。このように言われたり、言ったりしたことがある人は少なくないでしょう。実は、ここには「論理的」という言葉に対する大きな誤解が潜んでいます。実際は、「論理的に考える」のではなく、いったん考えたことを振り返った後「論理的に整理する」のです。これが大事なポイントです。同様に、看護教員が講義、会議、学会などで求められる、「論理的に話す」ということも、「論理的に考えを整理してから話す」という意味になります。

今回の特集は、「論理的」という言葉の誤解を解いたうえで、いかにすれば論理的に話すようになれるのか、その思考過程や具体的な方策を、読者の皆さんに提供すべく組まれたものです。そもそも「論理的」とはどのようなことなのかという解説をふまえて、普段の生活のなかでの「非論理的」な会話や話し合いの実際例などをみることにより、論理的に話すための学びのきっかけをつかんでいただければと考えています。

教員が「論理的に話す」ことができるようになれば、その意味や方法を学生にも伝えることができますし、「論理的に考えを整理してから話す」ことで、発言の目的を相手に正確に伝えることができます。これが社会生活を送るうえでも重要なのは、言うまでもないでしょう。

さらに、一般的には「論理的に書く、聞く、読む、話す」の4つは、異なる出力形態をとるため、あたかも別ものとしてとらえられがちですが、考えを振り返り論理的に整理してから行う、という点においては実は同じことです。今回は「話す」に焦点を当てていますが、次号の『論理的に書こう!』特集も、ぜひ併せてご覧ください。